

神経内科

当科後期研修は、卒後3年目の先生方には勿論のこと、卒後4年目以上の先生方にも門戸が大きく開かれており、これまでも他院で後期研修を積んだ医師が当科でさらに3年間研修を積むというケースは多々ありました。実際、私も中規模市中病院で初期・後期研修を修了し、卒後6年目からこちらで診療に当たっています。

ここでの診療の特徴として実感しているのは、「神経疾患緊急対応の豊富さ」と「診断・治療精度の高さ」です。当科入院のうち大多数が緊急入院であり、疾患の幅としては脳血管障害・神経筋疾患・変性疾患など極めて多岐に渡るため、問診・身体所見から短時間で問題点を抽出し診断・治療へと至るプロセスがしっかり養われ、一般内科医としてはもちろんのこと、神経内科医として実力をしっかり蓄えることが出来ます。幸原部長を含め指導医の先生方が気軽に (!) 一緒に患者を診察してくれることで、神経徴候のとり方のコツを学んだり、神経所見の解釈や病態について十分なdiscussionが出来ますので、若手医師が今後大きく正しく育つためのエッセンスが詰まっている病院だと思います。

また腰椎穿刺から筋生検、カテーテル検査に至るまで手技面での指導も充実しており、特に神経伝導検査・針筋電図では原理・手技の正確性・所見解釈に至るまで部長直々に指導してもらえますし、脳血管障害では脳神経外科との十分な連携の下、神経内科医が脳血管造影検査や血管内治療を行うこともあります。他科の先生にもコンサルトしやすい環境であり、看護師・検査技師も協力的で、フットワークが軽いので、極めて働きやすい環境です。「本物の先生の下で本物の症例を学べる」という関西で有数の病院の一つだと日々実感しています。（正直、私も卒後3年目から当院神経内科に来ていればよかったかもしれません、笑。）

また、日々の診療の中で貴重な症例を埋もれたままにせず、積極的に勉強会・学会発表・論文作成を行っています。こういう機会を利用することで自分が診た症例がどういう位置づけにあるのか最新の知見を交えて吟味し、次の症例へ活かすということを学べます。

研修生活は確かにハードかもしれませんが、上級医との縦の連携・後期研修医同士の横の連携がしっかりしているので、辛いとき・困ったときは助け合って診療に当たっていますし、一人で問題を抱え込むことはありません。週末などに自分の時間をしっかり確保することもできますので、充実した3年間になると思います。

興味のある先生は、是非一度見学にいらしてください！病棟・外来でストイックに診療している場面や、医局で上下入り混じって雑談したりおやつを食べたりしているアットホームな場面など、メリハリの効いた魅力的な職場を実感していただけたらと思います。お待ちしております！